



sFlow の設定

この章では、Cisco NX-OS デバイスで sFlow を設定する方法について説明します。

この章は、次の項で構成されています。

- [sFlow について \(1 ページ\)](#)
- [sFlow の前提条件 \(2 ページ\)](#)
- [sFlow の注意事項および制約事項 \(2 ページ\)](#)
- [sFlow のデフォルト設定 \(3 ページ\)](#)
- [sFlow の設定 \(4 ページ\)](#)
- [sFlow 設定の確認 \(11 ページ\)](#)
- [sFlow 統計情報のモニタリングとクリア \(12 ページ\)](#)
- [sFlow の設定例 \(12 ページ\)](#)
- [その他の参考資料 \(13 ページ\)](#)

sFlow について

サンプリングされた Flow (sFlow) を使用すると、スイッチやルータを含むデータネットワーク内のリアルタイムトラフィックをモニターできます。sFlow では、トラフィックをモニターするためにスイッチとルータ上の sFlow エージェント ソフトウェアでサンプリングメカニズムを使用して、サンプルデータを中央のデータコレクタに転送します。

sFlow の詳細については、[RFC 3176](#) を参照してください。

sFlow エージェント

Cisco NX-OS ソフトウェアに組み込まれている sFlow エージェントは、サンプリングされるパケットのデータソースに関連付けられたインターフェイスカウンタを定期的にサンプリングまたはポーリングします。このデータソースは、イーサネットインターフェイス、EtherChannel インターフェイス、ある範囲に属するイーサネットインターフェイスのいずれかです。sFlow エージェントは、イーサネットポートマネージャにクエリーを送信して対応する EtherChannel メンバーシップ情報を確認するほか、イーサネットポートマネージャからもメンバーシップの変更の通知を受信します。

sFlow サンプルングをイネーブルにすると、サンプルングレートとハードウェア内部の乱数に基づいて、入力パケットと出力パケットが sFlow でサンプルングされたパケットとして CPU に送信されます。sFlow エージェントはサンプルングされたパケットを処理し、sFlow アナライザに sFlow データグラムを送信します。sFlow データグラムには、元のサンプルングされたパケットに加えて、入力ポート、出力ポート、および元のパケット長に関する情報が含まれません。sFlow データグラムには、複数の sFlow サンプルを含めることができます。

sFlow の前提条件

sFlow には、次の前提条件があります。

- Cisco Nexus 9332PQ、9372PX、9372TX、93120TX スイッチ、および N9K-M6PQ 汎用拡張モジュール (GEM) 搭載の Cisco Nexus 9396PX、9396TX、93128TX スイッチについては、sFlow データ ソースとして設定するすべてのアップリンク ポート用の sFlow および SPAN ACL TCAM リージョン サイズを設定する必要があります。これを行うには、**hardware access-list tcam region sflow** および **hardware access-list tcam region span** コマンドを使用します。詳細については、『[ACL TCAM リージョン サイズの設定](#)』を参照してください。



(注) デフォルトでは、sflow リージョンサイズはゼロで、span リージョンサイズはゼロ以外です。ポートを sFlow データソースとして設定するには、sflow リージョンを 256 に設定し、十分なエントリを span リージョンに割り当てる必要があります。

- マルチキャストトラフィックの出力 sFlow には、ハードウェアマルチキャストグローバル TX スパン設定が必要です

sFlow の注意事項および制約事項



(注) スケールの情報については、リリース特定の『[Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Verified Scalability Guide](#)』を参照してください。

sFlow には、次の注意事項と制限事項があります。

- 少なくとも 1 つの sFlow データソースが設定されている場合、SPAN セッションは起動できません。
 - 少なくとも 1 つの SPAN セッションが **no shut** として設定されている場合、sFlow データソースは追加できません。
 - sFlow に使用されるサンプルングモードは、LFSR と呼ばれるアルゴリズムに基づいています。LFSR を使用するため、数個のパケットごとに 1 個がサンプルングレート

n でサンプリングされることは保証されません。ただし、サンプリングされるパケットの数は、一定期間の合計パケット数と同じです。

- sFlow と SPAN が同じインターフェイスに設定されており、ハードウェア レートリミッタが sFlow 用に設定されている場合、**show hardware rate-limiter** コマンドの出力の Rate-Limiter Drops カウンタは予想よりも多くのドロップを表示します。
- sFlow はソフトウェア駆動型の機能で、ハードウェアは sFlow 送信元インターフェイスから CPU にトラフィックのコピーを送信するだけです。高い CPU 使用率が予想されます。ハードウェアによって CPU に送信される sFlow トラフィックは、CPU を保護するためにレート制限されます。
- インターフェイスの sFlow をイネーブルにすると、入力と出力の両方に対してイネーブルになります。入力だけまたは出力だけの sFlow をイネーブルにできません。
- sFlow は SVI ではサポートされません。
- サブインターフェイスは sFlow ではサポートされていません。
- システムの sFlow の設定およびトラフィックに基づいてサンプリングレートを設定することをお勧めします。
- スイッチは 1 つのみの sFlow コレクタをサポートします。
- sFlow とネットワーク アドレス変換 (NAT) は、同じポートではサポートされません。
- sFlow は、IPv4 コレクタ ポートでのみ IPv6 トラフィックのサンプリングをサポートしません。
- sFlow カウンタは、sFlow データ送信元インターフェイスに入力される制御パケットに対しても増加します。これらのパケットはサンプリングされ、sFlow データグラムとして送信されます (データ プレーン トラフィックと同様) 。
- 次の Cisco Nexus スイッチは、sFlow と SPAN を同時にサポートします。
 - N9336C-FX2
 - N93240YC-FX2
 - N93360YC-FX2
- Cisco NX-OS リリース 9.3(3) 以降、Cisco Nexus 9300-GX プラットフォーム スイッチは、sFlow と SPAN の両方をサポートしています。
- Cisco Nexus 9300-EX および 9300-FX プラットフォーム スイッチでは、FEX、HIF、および NIF ポートを sFlow データ ソース インターフェイスとして設定できません。

sFlow のデフォルト設定

次の表に、sFlow パラメータのデフォルト設定を示します。

表 1: デフォルトの sFlow パラメータ

パラメータ	デフォルト
sFlow のサンプリング レート	4096
sFlow のサンプリング サイズ	128
sFlow カウンタのポーリング間隔	20
sFlow の最大データグラム サイズ	1400
sFlow コレクタの IP アドレス	0.0.0.0
sFlow のコレクタ ポート	6343
sFlow エージェントの IP アドレス	0.0.0.0

sFlow の設定

sFlow の有効化

スイッチの sFlow を設定する前に sFlow 機能を有効にする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例： switch# configure terminal switch(config)#	グローバル設定モードを開始します。
ステップ 2	[no] feature sflow 例： switch(config)# feature sflow	sFlow を有効または無効にします。
ステップ 3	(任意) show feature 例： switch(config)# show feature	有効および無効にされた機能を表示します。
ステップ 4	(任意) copy running-config startup-config 例： switch(config)# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

サンプリングレートの設定

sFlow のサンプリングレートを設定できます。

始める前に

sFlow が有効になっていることを確認します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例： switch# configure terminal switch(config)#	グローバル コンフィギュレーションモードを開始します
ステップ 2	[no] sflow sampling-rate sampling-rate 例： switch(config)# sflow sampling-rate 50000	パケットの sFlow のサンプリングレートを設定します。 <i>sampling-rate</i> には 4096 ~ 1000000000 の整数を指定できます。
ステップ 3	(任意) show sflow 例： switch(config)# show sflow	sFlow 設定を表示します。
ステップ 4	(任意) copy running-config startup-config 例： switch(config)# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。

最大サンプリングサイズの設定

サンプリングされたパケットからコピーする最大バイト数を設定できます。

始める前に

sFlow が有効になっていることを確認します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例：	グローバル コンフィギュレーションモードを開始します

	コマンドまたはアクション	目的
	switch# configure terminal switch(config)#	
ステップ 2	[no] sflow max-sampled-size <i>sampling-size</i> 例： switch(config)# sflow max-sampled-size 200	sFlow の最大サンプリングサイズを設定 します。 <i>sampling-size</i> の範囲は 64～256 バイトで す。
ステップ 3	(任意) show sflow 例： switch(config)# show sflow	sFlow 設定を表示します。
ステップ 4	(任意) copy running-config startup-config 例： switch(config)# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スター トアップ コンフィギュレーションにコ ピーします。

カウンタのポーリング間隔の設定

データソースに関連するカウンタの継続的なサンプル間の最大秒数を設定できます。サンプリング間隔 0 は、カウンタのサンプリングをディセーブルにします。

始める前に

sFlow が有効になっていることを確認します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例： switch# configure terminal switch(config)#	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します
ステップ 2	[no] sflow counter-poll-interval <i>poll-interval</i> 例： switch(config)# sflow counter-poll-interval 100	インターフェイスの sFlow のポーリング 間隔を設定します。 <i>poll-interval</i> の範囲は 0～2147483647 秒 です。
ステップ 3	(任意) show sflow 例： switch(config)# show sflow	sFlow 設定を表示します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	(任意) copy running-config startup-config 例 : <pre>switch(config)# copy running-config startup-config</pre>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。

最大データグラム サイズの設定

1 つのサンプル データグラムで送信できるデータの最大バイト数を設定できます。

始める前に

sFlow が有効になっていることを確認します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例 : <pre>switch# configure terminal switch(config)#</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します
ステップ 2	[no] sflow max-datagram-size datagram-size 例 : <pre>switch(config)# sflow max-datagram-size 2000</pre>	sFlow の最大データグラム サイズを設定します。 <i>datagram-size</i> の範囲は 200~9000 バイトです。
ステップ 3	(任意) show sflow 例 : <pre>switch(config)# show sflow</pre>	sFlow 設定を表示します。
ステップ 4	(任意) copy running-config startup-config 例 : <pre>switch(config)# copy running-config startup-config</pre>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。

sFlow コレクタ アドレスの設定

管理ポートに接続されている sFlow データ コレクタの IPv4 アドレスを設定できます。

始める前に

sFlow が有効になっていることを確認します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例 : <pre>switch# configure terminal switch(config)#</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します
ステップ 2	[no] sflow collector-ip ip-address vrf vrf [source ip-address] 例 : <pre>switch(config)# sflow collector-ip 192.0.2.5 vrf management</pre>	<p>sFlow コレクタの IPv4 アドレスを設定します。IP アドレスを 0.0.0.0 に設定すると、すべてのサンプリングが無効になります。</p> <p>vrf は次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ユーザ定義の VRF 名：最大 32 文字の英数字を指定できます。 • vrf 管理：sFlow データ コレクタが管理ポートに接続されたネットワークに存在する場合は、このオプションを使用する必要があります。 • vrf デフォルト：sFlow データ コレクタが前面パネルのポートに接続されたネットワークに存在する場合は、このオプションを使用する必要があります。 <p>source ip-address オプションを指定すると、送信される sFlow データグラムで送信元 IP アドレスが IP パケットの送信元アドレスとして使用されるようになります。送信元 IP アドレスは、スイッチのローカル インターフェイスの 1 つです。すでに設定されている必要があります。それ以外の場合は、エラー メッセージが表示されます。このオプションの設定後に送信元 IP アドレスを持つ インターフェイスが変更または削除されると、sFlow データグラムは送信されなくなり、イベント履歴エラーと syslog エラーがログに記録されます。source ip-address オプションが未設定の場合、Cisco NX-OS は</p>

	コマンドまたはアクション	目的
		送信される sFlow データグラムに対して、IP パケットの送信元アドレスを自動的に選択します。
ステップ 3	(任意) show sflow 例： switch(config)# show sflow	sFlow 設定を表示します。
ステップ 4	(任意) copy running-config startup-config 例： switch(config)# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。

sFlow コレクタ ポートの設定

sFlow データグラムの宛先ポートを設定できます。

始める前に

sFlow が有効になっていることを確認します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例： switch# configure terminal switch(config)#	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します
ステップ 2	[no] sflow collector-port collector-port 例： switch(config)# sflow collector-port 7000	sFlow コレクタの UDP ポートを設定します。 <i>collector-port</i> の範囲は 1~65535 です。
ステップ 3	(任意) show sflow 例： switch(config)# show sflow	sFlow 設定を表示します。
ステップ 4	(任意) copy running-config startup-config 例： switch(config)# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。

sFlow エージェントアドレスの設定

sFlow エージェントの IPv4 アドレスを設定します。

始める前に

sFlow を有効にしていることを確認します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例： switch# configure terminal switch(config)#	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します
ステップ 2	[no] sflow agent-ip ip-address 例： switch(config)# sflow agent-ip 192.0.2.3	sFlow エージェントの IPv4 アドレスを設定します。 デフォルトの IP アドレスは 0.0.0.0 です。つまり、すべてのサンプリングがスイッチで無効であることを示します。 sFlow 機能をイネーブルにするには、有効な IP アドレスを指定する必要があります。 (注) この IP アドレスは、コレクタに sFlow データグラムを送信するための送信元 IP アドレスとは限りません。
ステップ 3	(任意) show sflow 例： switch(config)# show sflow	sFlow 設定を表示します。
ステップ 4	(任意) copy running-config startup-config 例： switch(config)# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。

sFlow サンプリング データ ソースの設定

sFlow のサンプリングデータソースには、イーサネットポート、イーサネットポートの範囲、またはポートチャネルとして設定できます。

始める前に

sFlow を有効にしていることを確認します。

データ ソースとしてポート チャンネルを使用する場合は、すでにポート チャンネルを設定して、ポート チャンネル番号がわかっていることを確認してください。

Cisco Nexus 9332PQ、9372PX、9372TX、93120TX スイッチ、および N9K-M6PQ または N9K-M12PQ 汎用拡張モジュール (GEM) 搭載の Cisco Nexus 9396PX、9396TX、93128TX スイッチについて、これらのデバイスで sFlow データ ソースとして設定されているすべてのアップリンク ポート用の sFlow および SPAN ACL TCAM リージョン サイズが設定されていることを確認します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例： switch# configure terminal switch(config)#	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します
ステップ 2	[no] sflow data-source interface [ethernet slot/port[-port] port-channel channel-number] 例： switch(config)# sflow data-source interface ethernet 1/5-12	sFlow のサンプリング データ ソースを設定します。 イーサネットのデータ ソースの場合、 <i>slot</i> はスロット番号、 <i>port</i> は 1 つのポート番号または <i>port-port</i> で指定されたポートの範囲です。
ステップ 3	(任意) show sflow 例： switch(config)# show sflow	sFlow 設定を表示します。
ステップ 4	(任意) copy running-config startup-config 例： switch(config)# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。

sFlow 設定の確認

sFlow 設定を表示するには、次のコマンドを使用します。

表 2: sFlow Show コマンド

コマンド	目的
show sflow	sFlow サンプラーおよびsFlow エージェント設定のすべてのデータ ソースを表示します。
show process	sFlow プロセスが実行されているかどうかを確認します。
show running-config sflow [all]	現在実行中の sFlow コンフィギュレーションを表示します。

sFlow 統計情報のモニタリングとクリア

sFlow 統計情報を表示するには、**show sflow statistics** コマンドを使用します。

sFlow 統計情報をクリアするには、次のコマンドを使用します。

コマンド	説明
clear sflow statistics	show sflow statistics コマンドから sFlow 統計情報のほとんどをクリアします。
clear counters interface all	show sflow statistics コマンドの [トータル パケット (Total Packets)] フィールドをクリアします。
clear hardware rate-limiter sflow	show sflow statistics コマンドの [トータル サンプル (Total Samples)] フィールドをクリアします。

sFlow の設定例

次に sFlow を設定する例を示します。

```
feature sflow
sflow sampling-rate 5000
sflow max-sampled-size 200
sflow counter-poll-interval 100
sflow max-datagram-size 2000
sflow collector-ip 192.0.2.5 vrf management
sflow collector-port 7000
sflow agent-ip 192.0.2.3
sflow data-source interface ethernet 1/5
```

その他の参考資料

関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
ACL TCAM リージョン	IP ACL の設定

